

園児・児童・生徒対象 対話型鑑賞のすすめ

全国の学校や美術館で行われる美術鑑賞授業の1つの形として、先生や学芸員の解説を一方的に聞くのではなく、児童・生徒自身が主体的に発言をし、対話をしながら美術作品に対する見方や価値意識を深めていく「対話による鑑賞授業」が注目されています。

子ども達の観察・思考・表現による開かれた対話は、相手の多様な考えに気付き、互いに認め合う心を育むとともに、自分の考え方を広げる場ともなります。

また、美術鑑賞を通した言語力育成のカリキュラムとして、この鑑賞授業が国語科の授業等に取り入れられることもあります。

当美術館においても、子ども達の豊かな感性の育成に資するため、未就学児から中学生までを対象に、本物の作品を用いた来館型の「対話型鑑賞」を推奨しています。また、総合的な学習の一環として、地域を知る、ふるさとゆかりの人を知るといった観点からのご利用も歓迎します。

身近な美術館として、当館をどうぞご利用ください。実施日や時間など、お気軽にお問い合わせください。

§ 対話型鑑賞の進め方の例 §

1 導入

- ・美術館でのマナーを確認します。
- ・今回鑑賞する作品を、一通り見ます。
- ・その後、第一印象や気になる作品を尋ねます。
- ・子ども達の気付きを受容・肯定しながら、皆で話し合いながら作品を観ていくことを伝えます。

作品を大切にするために守ってほしいこと

1. 観るだけ(触らない)
2. ゆっくり歩こう(押さない、走らない)
3. メモはえんぴつで

…でも、お話はOK。小さな声で。

2 対話型鑑賞

- ・一つの作品を観て、感じ取ったことを皆で話し合っていきます。
(時間や興味に応じて、2点程度を取り上げます。)
- ・着目点の例：何が描かれている？どんな様子？
季節はいつ頃だろう？何時頃かな？
(人物画なら)何かしゃべっている？どんな気持ちだろう？
- ・自分や友達が、作品のどんなところからそう思ったのかを具体的に考え、伝え合う活動を通して、作品の見方を深めていきます。
- ・作品のポーズや表情を真似(身体化)してみると、視覚だけでは分からなかった発見があります。
- ・中学生では、形・色彩などの造形要素から、表現の工夫、中川一政の制作意図なども考えます。

作品を観るポイント

1. 先ずは、しっかり観る
2. よく考える
3. 手を上げて話す
4. 他の人の話はしっかり聞く

- ◎いい意見や面白い見方はあっても、間違った意見や変な見方はありません。
- ◎互いに説明し合い、作品の見方を広げることで、鑑賞能力が育まれます。
- ◎多様な見方、価値観があることを知り、それぞれを尊重し受容する心を伸ばします。
- ◎対象年齢に応じては、出てくる意見から、中川一政の画の特徴や制作姿勢※へ話をつなげ、目的に応じて、次の3へ進めます。
※油絵具の表現(タッチ、デフォルメなど)、独学、現場主義、ヴァン・ゴッホなど

3 中川一政ってこんな人。白山市とのゆかり(ふるさと教育)

- ・明治時代(今から125年位前)に東京で生まれ育ちます。
- ・独学で画家になり、21歳から97歳まで75年以上にわたって描き続けました。
- ・画だけでなく、書、陶芸、挿画、ブックデザイン、また短歌や詩、エッセイなどで活躍しました。
- ・白山市は中川一政のお母さんのふるさとです。

◇お問い合わせは

白山市立松任中川一政記念美術館 担当：徳井、福田

〒924-0888 白山市旭町6-1-1 TEL/FAX 275-7532 (月曜休館です)